

オスレイ配備撤回を市民らと共に「NO」のカードを掲げ拳を突き上げるアッシュ・キリエ・ウィルソンさん（手前）とアロン・ヒュースさん16日、宮野湾市の野嵩ゲート前



# 「基地閉鎖こそ勝利」

## イラク派遣 元米兵ら訴え

普天間野嵩ゲート

イラクに派遣された経験を持つ元米軍兵士のアロン・ヒュースさん30とア

ッシュ・キリエ・ウィルソンさん31が16日、宮野湾市の米軍普天間飛行場野嵩ゲート前で、同飛行場に入りする米兵らに対し「共に平和のために立ち上がる」と呼び掛ける反戦アピール行動を実施した。2人は同日夜には、毎週金曜に同ゲート前で行われているオスプレイに反対する抗議

集会にも参加、多くの市民らと共に拳を上げて全ての軍事基地の撤去を訴えた。2人は2003年に米軍兵士としてイラクに派遣され、約1年間にわたり軍事行動に従事した。帰還後、自らの過酷な戦争体験を多くの人々に伝える必要性を強く感じ、世界中で講演やアートを通して反戦を訴え

続けている。20日には那覇市で講演が開催される。アロンさんは、継続的に行われている抗議行動に対し「沖縄の人々の自主権を取り戻す誇りある闘いだ」と話し、「闘いに勝利し、基地が閉鎖されることで米軍兵士らは米国の家族の元へ帰ることが出来る。それは兵士らの癒やしでもあり、(元兵士である)私たちの勝利と回復でもある」と語った。

アッシュさんは、沖縄で米兵による暴行事件が相次いでいることに「米軍兵士は支配的になるよう訓練を受けている。(暴行事件は)訓練によって身に付けた残虐性、暴力性の表れだろう」と述べた。2人は、17日に名護市の辺野古と東村の高江を訪れ、米軍の新基地建設に揺れる沖縄の現状を学ぶ。